

中川町 ゼロカーボン推進計画 (区域施策編) 概要版 (案)

～持続可能な流域社会づくりのナカガワ～



令和8年●月

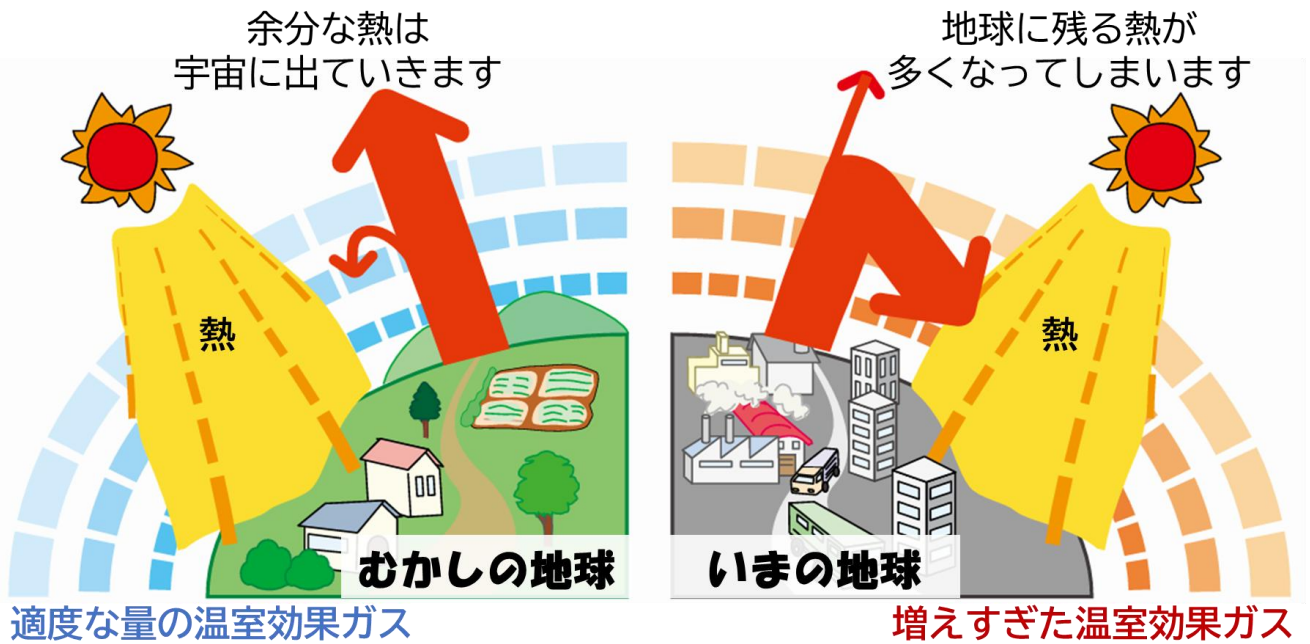


北海道 中川町

本計画は、環境省「令和6年度（補正予算）二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（地域脱炭素実現に向けた再エネの最大限導入のための計画づくり支援事業）」（第1号事業）を活用して作成されたものです。

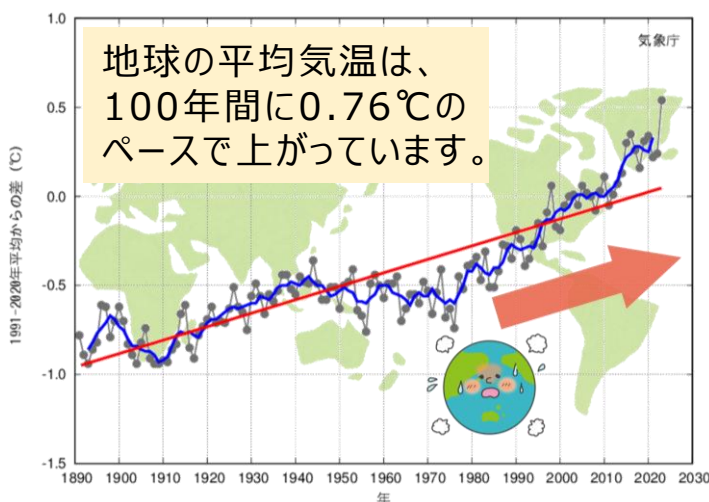
地球温暖化ってなに？

- 近年、私たち人間は、ものをたくさん作り、たくさん使う暮らしをするようになりました。その結果、二酸化炭素（CO₂*¹）、メタン、フロン類などの温室効果ガス*²が空气中に大量に出るようになってしまい、宇宙に逃げるはずの熱が放出されず、地表にたまりすぎてしまったことで、地球の気温が上昇しています。
これを**地球温暖化**といいます。



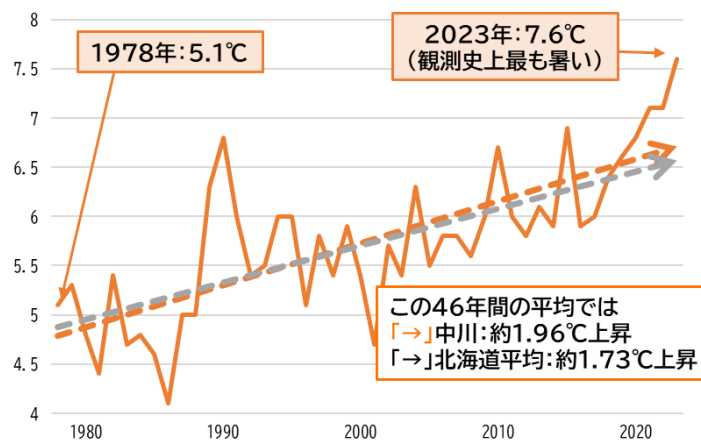
地球温暖化のメカニズム

出典：環境省



世界の年平均気温の推移

出典：気象庁



中川町の年平均気温の推移

出典：気象庁

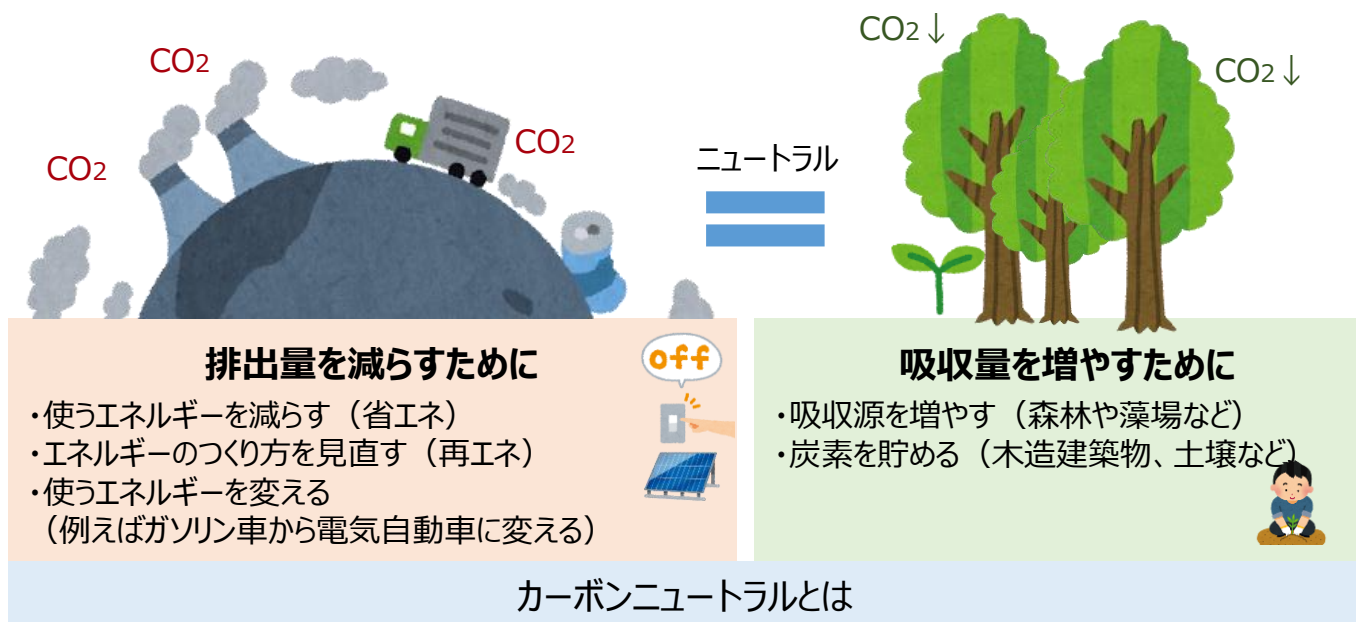
※ 1 CO₂：二酸化炭素のこと。石油、石炭、天然ガスなどの化石燃料を燃やすと特に多くCO₂が発生します。

※ 2 温室効果ガス：熱をため込む性質を持つ気体。温室効果ガスには、CO₂やメタン、一酸化二窒素、フロンガスなどがあります。その中でも一番多いのがCO₂です。

目指せ！カーボンニュートラル！

- 地球温暖化による気候変動を防ぐには**CO₂などの温室効果ガスを減らすことが必要**です。世界の国々では、CO₂などの排出量を減らし、森林などによってCO₂を吸収することで、温室効果ガス排出を実質ゼロにする「**カーボンニュートラル**」の達成が共通の目標となっています。
- 日本でも2020年10月に、2050年までにカーボンニュートラルを目指す宣言を行いました。

「カーボンニュートラル」とは・・・ 温室効果ガスの排出量と吸収量を等しくすること



この計画は、どんな計画なの？

- 中川町でも、2022年4月に、2050年までにCO₂排出量実質ゼロを目指す「**ゼロカーボンシティ宣言**」を表明しました。
- 本計画（中川町ゼロカーボン推進計画（区域施策編））は、中川町の自然的・経済的・社会的条件に応じて、温室効果ガスの排出抑制などを推進するための総合的な計画です。
- 中川町の自然や環境を生かしたゼロカーボンシティの実現に向け、温室効果ガス（二酸化炭素排出量）の削減目標や取組を明確にし、**町民、事業者、町が相互に協力・協働しながら、地域の責任者として地球温暖化対策に貢献することを目指します。**

～2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指して～
「中川町ゼロカーボンシティ宣言」

近年、地球温暖化に起因する気候変動によって、台風、集中豪雨や猛暑などの自然災害が多発化・激甚化しています。こうした気候変動は私たちの日々の生活のみならず、世界各地で自然環境や生態系への悪影響を及ぼしており、地球規模における対策が喫緊の課題となっております。

2015年12月に採択されたパリ協定では、「平均気温上昇を産業革命前に比べて2℃より十分下回るよう抑えることとともに、1.5℃までに抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されました。

また、2018年に公表された気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の特別報告書では、気温上昇を1.5℃に抑えるためには、「2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

我が国も、2020年10月に「2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにする、すなわちカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すこと」を宣言しました。

こうした国内外の動向を踏まえ、地球温暖化の課題に対し、中川町としても、近隣市町村や北海道と連携協力しながら、省エネルギーの実践、地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入、豊富な森林資源の適切な管理による二酸化炭素の吸収源対策など、積極的な対策を行っていく必要があります。

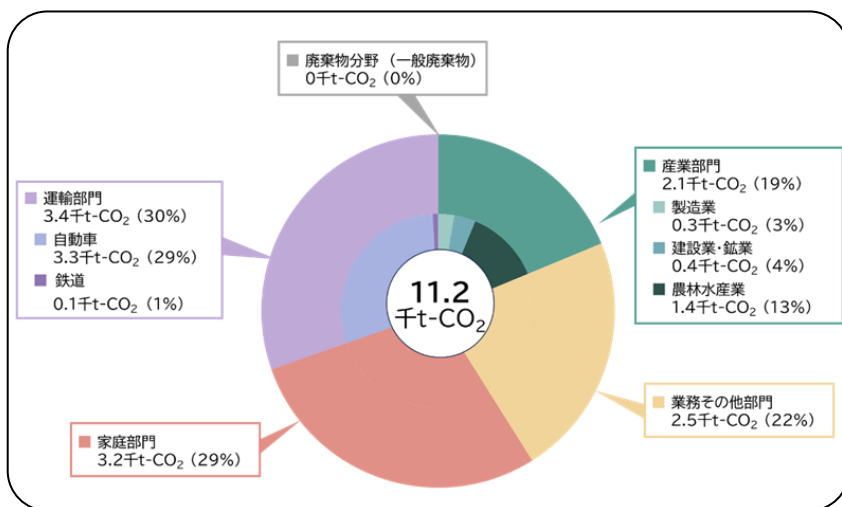
私たち中川町は、北海道そして地球全体の明るい未来を切り拓くため、自然と調和した、環境にやさしく快適で安全安心なまちづくりに向け、町民や事業者の皆様と一体となり、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロの実現を目指すことをここに宣言します。

令和4（2022）年4月1日

中川町長 印 堀 寿 典

今のCO₂排出量

- 中川町のCO₂排出量は、2022年度時点で11.2千t-CO₂と推計されました。各部門毎の排出量に偏りが小さいため、**各分野で省エネ行動や再エネの導入に取り組む必要があります。**



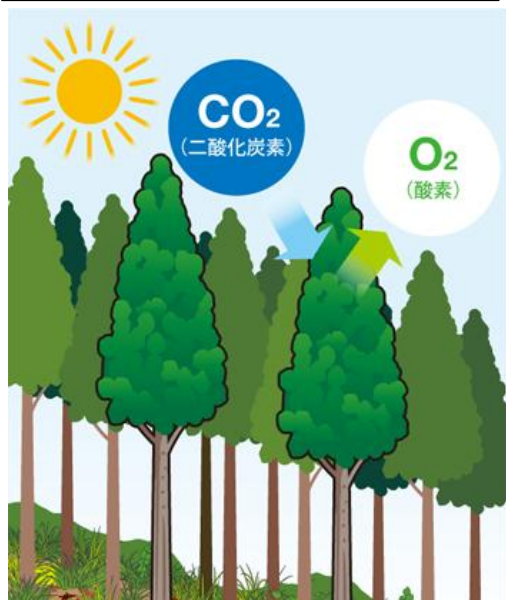
2022年度における中川町の部門別CO₂排出量

中川町の森林によるCO₂吸収

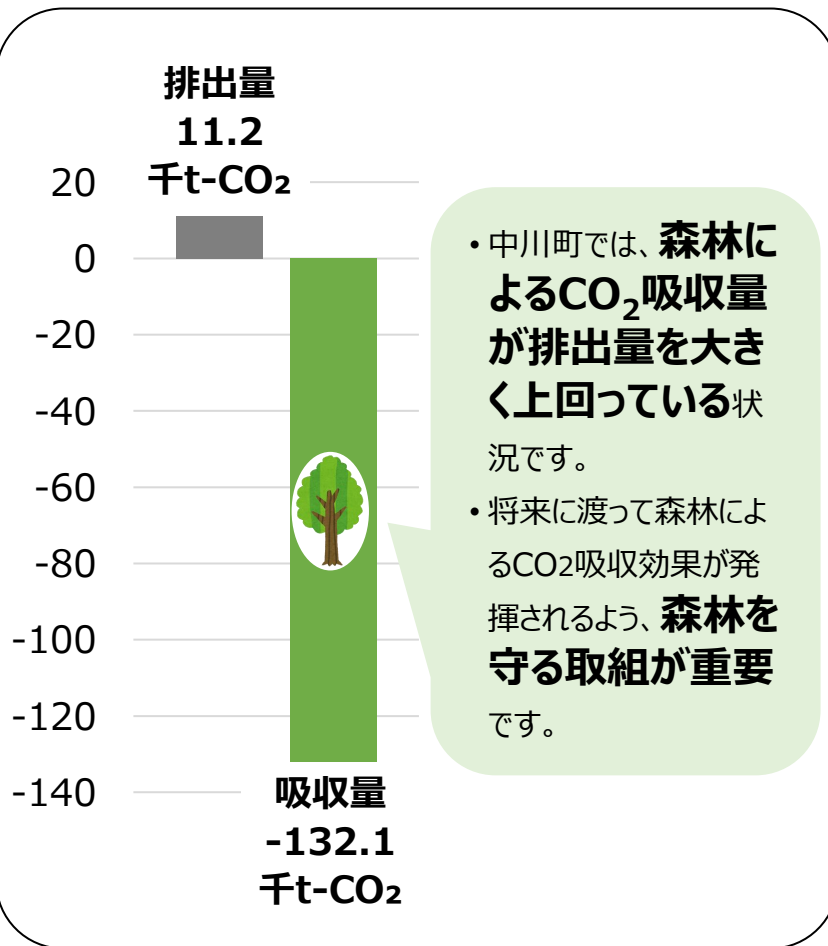
- 中川町において算定の対象となる**森林による年間のCO₂吸収量は、132.1千t-CO₂と算定されました。**

【森林による吸収量の内訳】

- ・国有林:62.1千t-CO₂
- ・北大研究林:56.0千t-CO₂
- ・町有林:6.7千t-CO₂
- ・私有林:6.0千t-CO₂
- ・道有林:1.4千t-CO₂



森林のはたらき



中川町のCO₂排出量と吸収量の比較

エネルギーコストを削減する省エネの実施

- 地球温暖化対策において、まずは使用しているエネルギーの量を減らす「省エネ」が重要です。
- 中川町において国立環境研究所が示す取組によって2050年度までに削減できる**省エネによるCO₂削減量は、3.5千t-CO₂/年**と試算されました。
- 家計や企業経営のエネルギーコストを減らすメリットが感じられる取組から進めていくことが求められます。

長期的な視点で進める再生可能エネルギーの利用

再生可能エネルギーとは、化石燃料と違い、常に自然に存在し、**使用時に温室効果ガスを増やさない**エネルギーのことです。中川町では、建物での太陽光発電の設置、薪などの木質燃料の使用、廃棄物のエネルギー化等の取組が実施されています。今後も長期的な視点で地域資源を活かす取組を検討していきます。

太陽光発電



「太陽光」から電気を生み出します。建物や土地に設置できます。

木質バイオマス



木材を薪やチップにしてボイラーやストーブで燃やして利用します。

廃棄物バイオマス



生ごみや家畜ふん尿などを発酵させて発生するガスを利用します。

中川町の主な再生可能エネルギー

森林によるCO₂吸収効果の維持

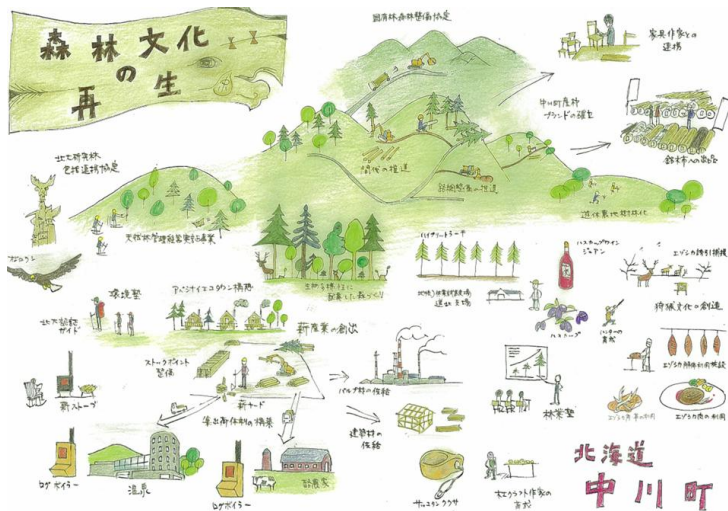
- 森林は、中川町の面積の8割以上を占めており、重要な資源です。
- 雇用の創出と地域の振興のため、**「森林文化の再生」の取組を推進し、森林を守りながらうまく活用していくことで、CO₂吸収効果を維持**していきます。

— 中川町が取り組む森林文化の再生 —

天塩川流域の中川町では、針葉樹と広葉樹が混在する針広混交林が広がります。広大な森林は町の大切な資源です。中川町は、「できることは町内で、難しいことは流域連携で行う」方針のもと、森林と林業を核に多角的な収入を得て、雇用の創出と地域の振興を目指した取組を進めています。

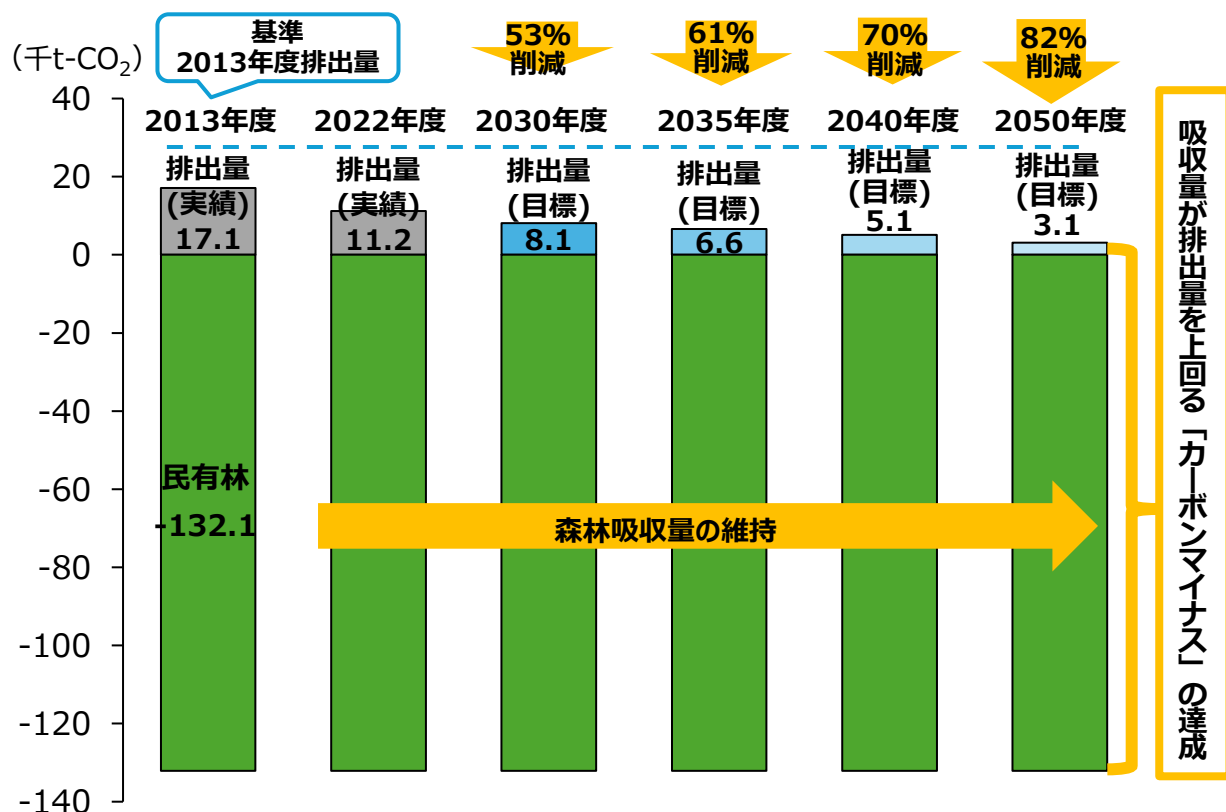
【具体的な取組例】

- 森林整備計画の策定
- 北海道大学研究林との連携による科学的な森づくりと人材育成
- 森林データの整備による林業の効率化
- 町産広葉樹を活用した家具づくり
- 林業文化を伝える「きり祭り」の開催 など



2050年度までの排出削減目標

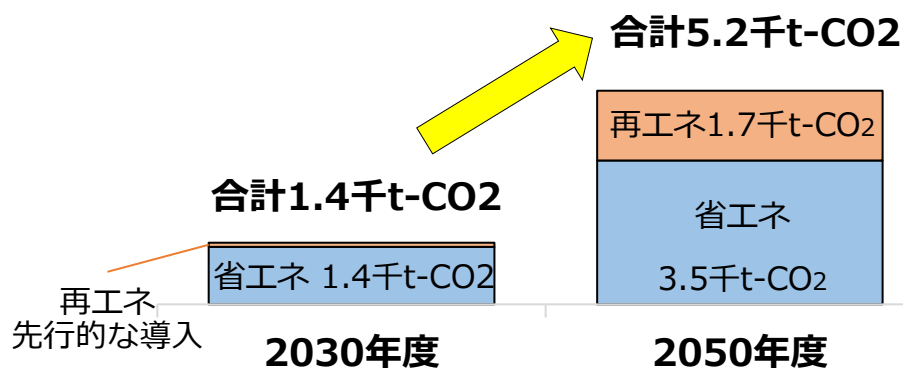
- 中川町におけるCO₂排出量の削減目標は、2013年度比での排出量の削減（2030年度53%、2035年度61%、2040年度70%、2050年度82%削減）に加え、森林吸収量の維持により、吸収量が排出量を上回る「カーボンマイナス」の達成を目指します。



温室効果ガス排出削減目標

省エネ・再生可能エネルギー・森林吸収量の目標値

- 中川町では、CO₂排出削減目標の実現に向け、**森林吸収量の維持、可能な範囲での最大限の省エネ、地域の課題解決につながり産業や暮らしにメリットのある再生可能エネルギーの導入**を図り、それぞれに目標を設定して取組を推進します。



森林によるCO₂吸収量は、現状を維持し、国有林、北大研究林、町有林等を合わせて132.1千t-CO₂分を目指します。

取組毎の数値目標(省エネ・再生可能エネルギー・森林吸収)

ゼロカーボンを実現する町の将来像と4つの基本方針

- 2050年を見据えた地球温暖化対策と地域の課題解決を共に目指すため、ゼロカーボンシティを実現した中川町における将来像として「持続可能な流域社会づくりのナカガワ」を将来像に掲げ、2050年の将来像の実現に向けて、下記の4つの基本方針を定めました。

基本方針①天塩川森林文化の再生による資源循環の形成

豊かな森林資源を活用した「森林文化の再生」の取組中心に、森林資源の管理、林産業振興、エネルギー利用による森林資源の循環とそれにより創出されるCO₂クレジットの地域還元を目指します。

基本方針②エコな商工観光の振興で稼ぐ力を発掘

商工観光業における施設・設備の省力化・省エネ化や可能な範囲での再エネの導入を推進することで、暮らしに欠かさない商工業の振興、環境保全と観光振興の両立を目指した「エコ・モビリティ」による観光業の振興を目指します。

基本方針③最北の持続可能な耕畜連携農業ブランド強化

日本最北の畑作地帯という特徴と酪農業を土台とし、耕畜連携による有機肥料の活用、省力化と効率化によるクリーンな農業を推進し、「中川ブランド」として農産物の高付加価値化を図ることで、農業の脱炭素と生産者の経営環境の向上を目指します。

基本方針④北国の豊かな生活環境の整備と発信

省エネルギーで快適な公共施設・職・住環境の整備、自然との共生を目指したまちづくりをフィールドとした環境教育の充実、そしてこれらの中川町の多くの魅力を積極的に外側に発信することで更なる定住・移住の促進を目指します。

— 取組の段階的な具体化 —

step1

・森林によるCO₂吸収源の維持

森林整備の推進により、現状と同程度の森林吸収量を確保する。

step2

・財源の確保

森林由来のJクレジットの創出・販売により、町収入の増加、財源の確保を図る。

step3

・身近な省エネなどの取組の推進

生活者や事業者の省エネ推進など身近な取組から支援を開始する。

step4

・再生可能エネルギーの導入検討

規模の大きい再生可能エネルギーの導入は長期的に慎重に判断する。

地球にも、お財布にも優しい省エネと再エネについて

省エネってなに？

- ・ 省エネ（省エネルギー）とはエネルギーを効率よく使うことをいいます。
- ・ エネルギーを節約しつつも、ガマンはしすぎない「**エネルギーのかしこい使い方や効率的な暮らし方**」が大切です。

賢く省エネに取り組む3つのステップ

- ・ 1人ひとりの生活の中で、どのような省エネに取り組むことができるのか。3つの段階に分けて考えてみましょう。

① エネルギーをどれくらい使っているかチェック！

- ・ 家電製品の使い方や使う時間帯、季節によって電気料金・使用量はどう変わるのか？ **使用状況を知ることが、具体的な省エネ対策を考える際の手がかかり**になります。

北海道ゼロチャレ！家計簿
電気やエネルギーの使用量を入力するとCO₂の排出量が見える化できる北海道のウェブサイトです。



出典：北海道 (<https://zerocarbon.pref.hokkaido.lg.jp/>)



② 家電を換えてお得になるか調べてみよう！

- ・ 10年前と比較して家電のエネルギー効率は大きく向上しています。そのため、製品によっては**買い換えることが一番の省エネにつながる場合も**あります。

環境省 しんきゅうさん
昔の家電と現在の家電のエネルギー使用量を調べられる環境省のウェブサイトです。

出典：環境省 (<https://ondankataisaku.env.go.jp/shinkyusan/>)



③ 自分のライフスタイルにあった省エネをしよう！

- ・ 家庭では、さまざまな場面でエネルギーを使用しています。無理ない範囲で、ごみを減らしたり、エネルギー使用機器や設備の**使い方を見直してみよう**。

一人ひとりにできるゼロカーボンの取組
「衣」「食」「住」「ごみ」「森林」などの9つの分野に分け、道民一人ひとりが日々の暮らしや仕事の中で無理なく実践できる、ゼロカーボンにつながる取組が紹介されています。

出典：北海道（ゼロカーボン北海道チャレンジ！）
<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/zcs/challenge.html>

